

イセエビ標識放流調査

一ノ宮 誠・天真 正勝

イセエビは本県南域における重要な漁業対象種となっている。平成9年度に本種の移動、分布等の生態を明らかにする目的で海部郡由岐町阿部地先に標識放流を行なった。過年度に引き続き放流後の再捕状況を報告する。

この一連の調査に際して阿部、日和佐町及び宍喰漁業協同組合の関係者の方々には大変お世話になった。ここに深謝する。

材料及び方法

阿部地先において漁獲、蓄養されたイセエビ（頭胸甲長42～68mm）を標識放流に用いた。頭胸甲背面と第一腹節の境界にチューブ型のタグ標識を装着し、頭胸甲長測定及び第5胸脚基部の交接器の有無による雌雄の判定を行い、直ちに放流した。放流場所は、阿部漁港内の防波堤（水深8～10m）とした（ここは禁漁区として漁業規制が行われている）。再捕及びその情報は漁業者からの報告によった。再捕されたイセエビについては、可能な限り水産試験場職員が確認し、頭胸甲長等の測定を行なった。放流群の放流場所、放流日、放流個体数の概要を表1、放流時の頭胸甲長組成を図1に示した。本県のイセエビ漁は刺網によって行われ、禁漁期間は徳島県漁業調整規則により5月15日から9月15日までとされている。放流場所である阿部地先では10月上旬に操業が開始される。本報においては漁期を漁獲量の減少する冬季で区切り、解禁から12月

表1 平成10年度再捕状況

	放流個体数(尾)	再捕個体数(尾)	再捕率(%)
オス	344	27	7.8
メス	256	28	10.5
合計	600	55	9.2

31日までの年内の漁期を「秋漁期」、翌年1月1日から5月15日の終漁までを「春漁期」とそれぞれ呼ぶことにした。

結果及び考察

平成11年3月31日現在までの再捕結果の概要を表1、雌雄別の移動距離ごとの再捕状況を表2、3に示した。また、雌雄別の再捕場所を図2、3にそれぞれ示した。本年度は雄27個体、雌28個体が再捕され、再捕率は9.2%であった。昨年度は再捕個体の大半が秋漁期において漁獲された¹⁾が、本年度は、雌雄ともに春漁期における再捕尾数が秋漁期を上まわった（表2、3）。当放流群の平成11年3月31日現在までの再捕率は35.3%となり、過年度放流群の再捕率とほぼ同様の結果となった²⁾。移動距離については、再捕個体の大半（雄96.3%、雌96.4%）が放流地点から3km以内の阿部地先内で漁獲された（表2、3）。阿部地先外に移動した個体は僅かであり、雄雌ともに1個体が確認されたのみであった。最長移動距離については、宍喰町竹ヶ島沖の45kmであった（図3）。また、漁期

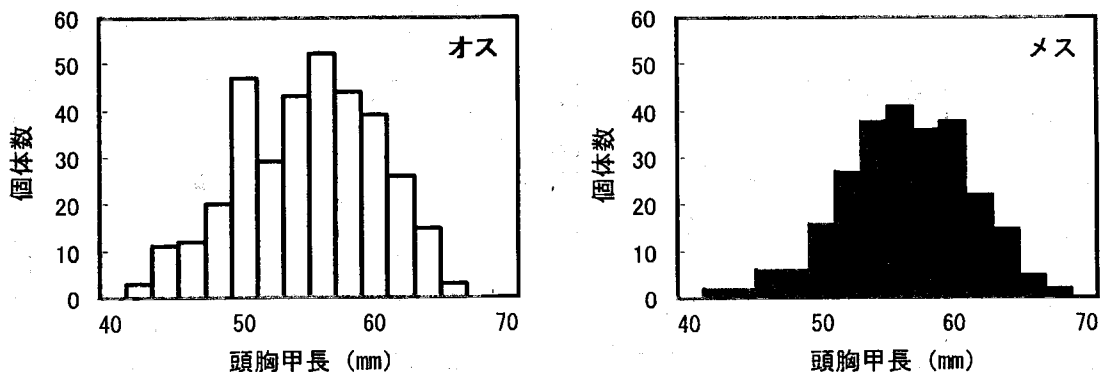


図1 放流群の放流時頭胸甲長組成

期間別による再捕場所の違いは、特にみられなかった(図2, 3)。これらの結果から、漁獲資源加入後のイセエビの大半は同一地先内に留まるものと考えられた。

2) 高木 俊祐・天真 正勝・山添 喜教(1997): イセエビ標識放流調査, 平成8年度徳島水試事業報告, 43-46。

文 献

1) 一ノ宮 誠・天真 正勝(1998): イセエビ標識放流調査, 平成9年度徳島水試事業報告, 5-7。

表2 平成10年度移動距離別再捕状況(オス)

移動距離(km)	~ 3	~ 5	~ 10	~ 20	~ 30	~ 40	~ 50	合計	再捕率(%)
秋漁期再捕個体数(尾)	12	0	0	0	0	0	0	12	44.4
春漁期再捕個体数(尾)	14	0	0	1	0	0	0	15	55.6
合計	26	0	0	1	0	0	0	27	100.0
再捕率(%)	96.3	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	100.0	

表3 平成10年度移動距離別再捕状況(メス)

移動距離(km)	~ 3	~ 5	~ 10	~ 20	~ 30	~ 40	~ 50	合計	再捕率(%)
秋漁期再捕個体数(尾)	10	0	0	0	0	0	1	11	39.3
春漁期再捕個体数(尾)	17	0	0	0	0	0	0	17	60.7
合計	27	0	0	0	0	0	1	28	100.0
再捕率(%)	96.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	100.0	

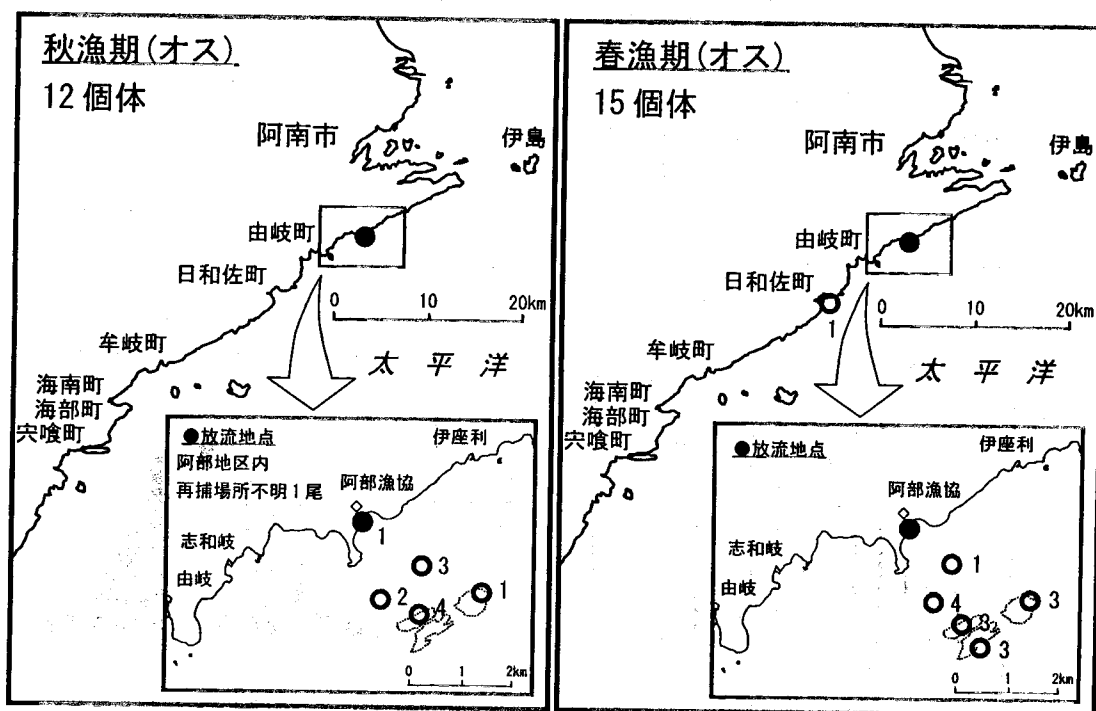


図2 放流群の期間別再捕場所(オス)

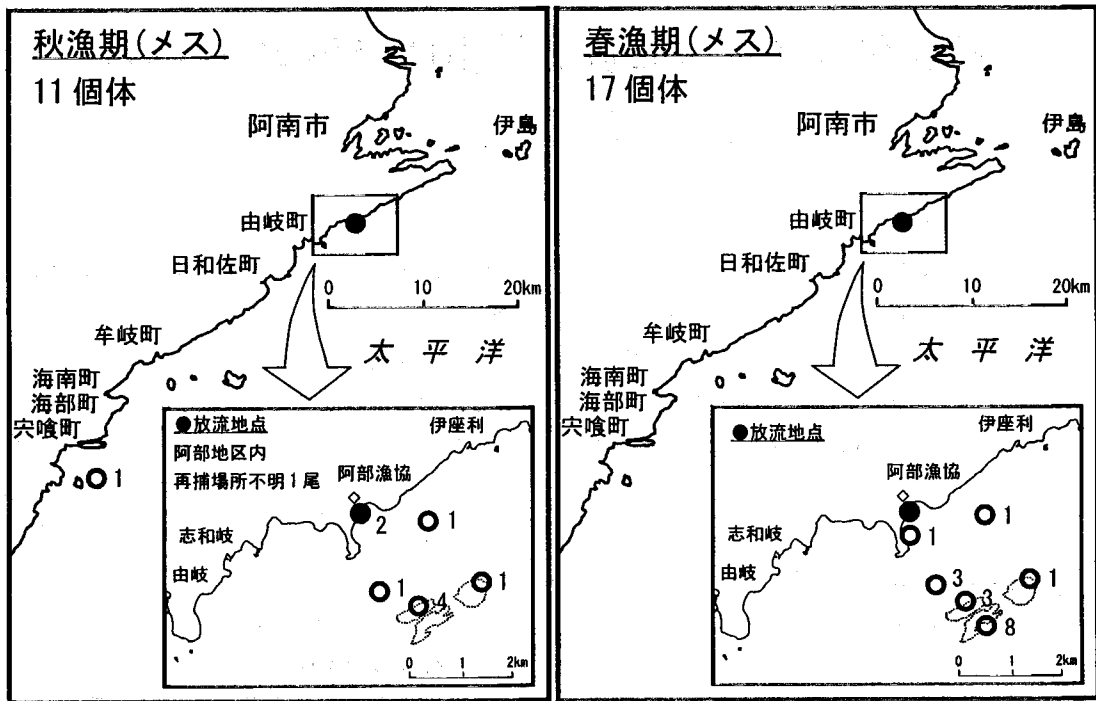


図3 放流群の期間別再捕場所(メス)